



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会議： 国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）海洋環境保護分科委員会（SC 2）船体への防汚塗料システム（WG 5）ハンブルク中間会合

開催場所： ドイツ規格協会：DIN-Normenstelle Schiffs- und Meerestechnik (NSMT), Hamburg, Germany

会議期間： 2019年1月21日～22日

参加者： 4カ国5名

海技研からの出席者：

小島 隆志：環境・動力系 環境影響評価研究グループ 上席研究員

概要：ISO/TC 8/SC 2/WG 5（以下、WG 5と記す。）は、

- 「防汚塗料の性能評価試験に係る規格」の作業原案（WD）に対して寄せられた各国コメント内容を審議し、それらを反映した修正WDを作成した。
- WG 5の親委員会であるSC 2への意見照会（CD投票）を省略せず、CD投票及び審議を行ったのち、国際規格原案(DIS)作成の審議を行うことに合意した。

#### 主な貢献

小島は、プロジェクトリーダー（以下、PL）として、WG 5メンバーの意見を取り入れたISO 21716-1～3「防汚塗料の性能評価試験に係る規格」のWDを作成し、今次会合に提出した。具体的には、2018年6月にスウェーデン（マルメ）で開催された前回SC 2会合後のWDへの各国コメント（2018年9月末締切）を反映し、WDを修正した。さらに、技術的なコメントについては、対応案を作成した。今次会合では、PLが用意したこれらWDと対応案を審議するとともにコメントへの回答を作成し、審議結果を反映したWDを作成した。



WG 5ハンブルグ中間会合出席者



## 主な審議結果

主な審議結果は以下の通りである。審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

【背景】 IMO で策定された船体付着生物防止ガイドライン (Resolution MEPC.207(62)) では、塗料メーカーは船主 (造船会社) に対して防汚技術の適切な運用・施工に関するアドバイスをを行うとされている。ガイドラインの包括的レビューの結果、ガイドラインの義務化を含む防汚対策の規制強化 (数値的な規制) に議論が進む可能性が高い。防汚管理の強化 (例えば、防汚範囲の数値的な規制、汚損した船の判断基準) により、防汚塗料は現状以上に防汚性能が高く、かつ水中洗浄にも耐えられる等の基準を要求される。そのための対策は、船主・造船所はもとより、塗料メーカーの責任によって実施される可能性があり、その場合塗料メーカーには非常に大きな負担となる。従ってそれを合理的に回避するためには、BAT (Best Available Technology) により防汚管理が許容されるスキームにしなければいけない。そこで、船底防汚塗料の性能を担保できる枠組みを構築すること、およびガイドラインに技術的に対応するために、我が国は新規作業項目 (NP) として、ISO/NP 21716-1~3 : “Ships and marine technology - Screening test methods for efficacy of anti-fouling paints” を提案した。NP 投票の結果採択され WG 5 として審議を継続している状況である。

【審議結果】 前回 SC 2 会合後に寄せられた各国コメントの審議結果を反映した WD について、WG 5 は以下の項目に合意し終了した。

- Part-1 (General requirements) の完成
- Part-2 (Using barnacles) の 9 章 (Validation of the test) まで審議を終了したこと
- Part-3 (Using mussels) は Part-2 のスタイルを踏襲し PL が修正すること
- 上記 Part-1 から Part-3 の WD および回答を記載したコメントシートを今年 2 月下旬に WG 5 メンバーへ送付し、今年 3 月末締切で再度コメントを募集すること
- CD 投票の実施<sup>a)</sup>

<sup>a)</sup> 規格の迅速な発行のため、WG 5 の親委員会である SC 2 への意見照会 (CD 投票) を省略する手続きを取る予定であったが、技術的な修正が多くなされたことを考慮し CD 投票を実施することとした。

### 【次回会合】

コンビーナは、2019 年 5 月に日本 (京都) で開催予定の SC 2 会合を紹介し、今次会合出席者へ参加を促した。